

3.4.2 チャモロダンスを踊ろう

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-01-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 実穂 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00008321

3.4.2 チャモロダンスを踊ろう

高橋 実穂
(茨木市立中条小学校)

キーワード：グアム創世物語、小学校1年生、先住民族、チャモロダンス

1 第1学年児童と楽しむチャモロダンス

筆者の勤務する茨木市立中条小学校は、地理的にも近いため、国立民族学博物館を利用する機会も多い。また、平成26年度より茨木市教育委員会が策定している「茨木っ子ジャンプアッププラン28」の中に「4. 外国語活動・英語活動」という項目も加えられ(茨木市教育委員会 2014)、子どもたちが、外国語活動やネイティブ・スピーカーとの関わりを通して他国の文化に触れる機会も増えてきている。そのため、学校教育の中で、子どもたちに身に付けさせたい力の一つとして、国際理解教育の観点を含んだ学習の可能性を探るため、「博学連携教員研修ワークショップ」に参加した。

「博学連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく 学校と博物館でつくる国際理解教育—新しい学びをデザインする—」歌と踊りで語りつぐ南の島の物語Ⅱ(東京学芸大学附属世田谷小学校:居城勝彦/茨木市立三島小学校:八代健志/帝京大学:中山京子/国立民族学博物館:林勲男)のワークショップでは、グアムの先住民族であるチャモロの文化が紹介された。チャモロの文化の一つであるチャモロダンスを通して、歌と踊りといった活動をする中で、「フウナ・ザン・ブンタン」という創生物語の歌詞と踊りには、チャモロに伝わるグアムの成り立ちについての意味が込められ、歌と踊りを通して今のグアムの学校教育などでも語り継がれていることを学ぶことができた。またワークショップの中で、実際に「フウナ・ザン・ブンタン」を踊ってみる活動があり、楽しさを感じるだけでなく、動きや表現の中からもチャモロの文化を感じることで、その踊りに込められた語り継がれる思いとチャモロの伝統文化としての重要性を知ることができた。

ワークショップで得た事柄を、子どもたちの学習活動の中に活用し、「楽しみながら、チャモロの文化に触れる」ことを目標として、以下のような活動を構想した。以下は、筆者がワークショップの内容を参考に、実践した活動内容である。

小学校学習指導要領体育科の内容に、「表現・リズムあそび」がある。表現あそびでは、子どもたちが身近な木や水といったものや、動物になって動き、リズムあそびの中では、それぞれ曲のリズムに乗って踊ったり、友達と調子を合わせて踊ったりして楽しむことを学習する。この表現・リズムあそびの中に、ワークショップで紹介されたチャ

モロダンスの一つである「フウナ・ザン・プンタン」を取り入れ、学習活動に広がりを持たせることを目指し、単元を設定した。

表現あそびの観点について、ワークショップ内で紹介されたように、「フウナ・ザン・プンタン」も、グアムの成り立ちをダンスで表現している。ダンスの中で表現される火や水、虹が登場する場面は、そのものを形取る動作で表されている。そのため、子どもたちが表現あそびの中で行う動作にも共通しているものがあり、子どもたち自身が踊りの中に表現されているものを感覚的に捉えることをねらいとし、「フウナ・ザン・プンタン」の楽曲を活動の教材に取り入れた。また、この楽曲を選択するにあたって、ワークショップ内で紹介された紙芝居を用いて、物語の内容と動作表現の繋がりを子どもたちを感じさせたいと考えた。リズムあそびの観点では、チャモロダンスに独特のリズムを感じ取り、ダンスを通してリズムカルに体を動かすことの楽しさを感じさせたい。

ワークショップでの学びを活かして、この単元を構想し、実行することで、子どもたちがチャモロダンスを通して、楽しみながらチャモロの文化を感じ、子どもたち自身の国際的な視野の一部を広げることに繋げていきたいと考えている。

2 学習活動の展開

学習内容は、以下のとおりである。

「チャモロダンスを踊ろう」 全2時間

対象学年：小学校1年生 32名 実施時期：8月

目 標：・「フウナ・ザン・プンタン」の踊りに登場する動作が表現する意味を知る。

・チャモロの歴史を知り、他国の文化や考え方を味わう。

・「フウナ・ザン・プンタン」を踊り、表現の仕方を楽しむ。

展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点・教師の動き
導入	1. カタカナで書かれた文章を読んでみよう。 →何が書かれているのかな。 →みんなで読んでみよう。	博学連携ワークショップ内で使われた歌詞を拡大し、黒板に掲示した。
展開	2. 紙芝居を見よう。 →「グアム」という国の歌だったんだ。 →「フウナ」と「プンタン」という言葉が紙芝居の中にも出てきたよ。 3. 「フウナ・ザン・プンタン」の歌と踊りを見てみよう。 →楽しい曲だね。体を動かしたくなる。 →太鼓の音がする。踊ってみたい。	博学連携ワークショップ内で使用された紙芝居を、使用した。 「フウナ・ザン・プンタン」の音源を使用し、ワークショップでの内容を元に、教師が踊りの動きを見せた。

	<p>4. 「フウナ・ザン・プンタン」を踊ってみよう。 →話の中に出てきたことがダンスの動きの中にあるね。 →虹の動き、水の動きがあるね。</p> <p>5. まとめ →チャモロダンスがどういうものなのか、知ることができた。 →ダンスで昔のお話を伝えていっているのがわかった。 →チャモロダンスの動きがとても楽しかった。他にもやってみたい。</p>	<p>動作の意味について、踊りを教えている際に、子どもたちに伝えた。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・踊りに登場する動作が表現する意味に興味を持つ。(表現) ・チャモロの歴史を知ることができる。(表現) ・他国の文化や考え方を味わいながら、活動に取り組むことができる。(表現) ・「フウナ・ザン・プンタン」を踊り、表現の仕方を楽しんで活動することができる。(態度) 	

まず子どもたちは、黒板に掲示されたカタカナで書かれた歌詞に興味を示した。チャモロに語り継がれているグアムの成り立ちが書かれた紙芝居の読み聞かせをすると、話の中で出てきた「フウナ」「プンタン」の言葉に歌詞との関連性に気づく子どもたちも出てきた。プンタンの体の一部が次々とグアムの島の自然へと変わっていくところにも日本神話との違いを見つけた児童もいた。日本とは違う国のお話というイメージが湧いたようである。



子どもたちは、「フウナ・ザン・プンタン」のダンスを通して、既習事項の中から「表現あそび」にもつながることに気づき、山や風といったダンスに登場する表現の意味に興味を持った。また、日本の伝統的な昔話に付けられた歌のように、歌と踊りによる昔話の伝承といった共通性に、気づく児童もいた。

本単元に参加した児童のうち、グアムという言葉を知っていた児童は半数程度であったが、学習後にグアムに興味を持ち、「フウナ・ザン・プンタン」以外のチャモロの伝統的なダンスもやってみたいと教師に伝えてくる児童もいた。

これらの結果から、本単元は子どもたちにとって、グアムという他の国の文化に触れ、チャモロダンスを踊ることでリズムや動作表現を楽しみながら、その文化に親しみをを感じる機会になれたのではないかと感じている。

「博学連携教員研修ワークショップ」では、毎年講師の方々の趣向を凝らした、様々な取り組みが紹介されている。取り組みの内容は、民博と学校を繋げるための、民博の情報や資料の活用方法である。ワークショップを通して、教師が紹介されている取り組みを楽しみ、その場の交流を持つことで、子どもたちに育みたい力や学校現場での活用方

法について考えることができる。筆者は、ワークショップでの体験を通し、今回このような単元を実践することができた。結果から、子どもたちに育みたいと目標に掲げた「楽しみながら他の国の文化に触れること」は、今回の実践の中で達成できたと感じている。今後も、このような「博学連携教員研修ワークショップ」を通し、紹介されている内容から得たことを実践として子どもたちに伝えていけるような活動を続けたいと思っている。

文 献

茨木市教育委員会

2014 「学力向上についての事業」『茨木っ子ジャンプアッププラン28』 1：36-52。